

人を想うということ。⇒ 人を診るということ。

同志、募集。

人が真ん中になると、医療は変わる。
目指したのは、病院らしくない病院。



いきるを支える。

人は前を向きながら生きています。

でも、長い人生のあいだには、医療の助けが必要な時もある。

私たちの役目は、そんな時、患者さまを一日でも早く、

いつもの前向きな生活に送り出すことだと思います。

病と向き合うだけでなく、どう生きるかに向き合う。

人がよりよく生きるための、医療のあり方を考える。

「いきるを支える」医療こそ、私たちが目指す医療です。

私たちの病院の名前である「HITO(ひと)」。

そこには、病を診るだけでなく、人を診る医療でありたいという私たちの思いが込められています。

人が真ん中になると、医療は変わる。人が生きる、そのとなりでずっと支え続ける。

私たちは HITO 病院です。

本当にやりたいこと、大切なこと、
一緒に探しませんか。

地域の皆さまの 「いきるを支える」ために。

HITO 病院のコンセプトは「病院らしくない」病院、
ネーミングにもセオリーではない「HITO」を採用
しました。

内装についても、くつろげる空間を意識し「病院らしく
ない」デザインになっています。

「いきるを支える」という言葉には、医療・ケアを
通して患者さまの人生をサポートさせていただくと
いう私たちの想いが含まれています。今後は「いきる
を支える」と「患者様第一」を胸に一步ずつ前進し、
地域に根ざした病院として良質な医療を提供できる
よう、今後もより一層精力的に取り組んでまいります。
誰からも選ばれ、信頼される病院を目指して、ひと
りひとりのスタッフが、HITO病院で働く誇りを
持ってほしい。

そんな病院を目指していきます。

ぜひ私たちと一緒に頑張りましょう！

社会医療法人 石川記念会 HITO病院
病院長 石川 賀代



HITO | 病院

「Lifeline」

HITOのすぐそばに、寄り添うようにまっすぐ伸びる一本の線。
それは「いきるを支える」医療を目指す、HITO病院のシンボルラインです。
まさに生命線である医療の場は、いつでも温かい血が通り、情熱に溢れています。

| HITO VISION

ミッション	「誰からも選ばれ、信頼される病院を目指す」
経営理念	HITOを中心に考え、社会に貢献する
行動規範	Human 1st. (患者様第一)

| Human 1st. (患者様第一)

患者さまを家族のように想い、温かく接することで、お互い理解し合えるようにとの理念を掲げ、職員は全員「Human 1st.」のバッジをつけています。心を開き、患者さまと公平に向き合うことで、人がいきるそのとなりでずっと支え続ける医療を提供できると考えています。



| 具体的なアクション

Humanity – 患者さまを家族のように想い、温かく接します。

Interaction – 患者さまとの対話を尊重し、相互理解に努めます。

Trust – 技術と知識の研鑽に努め、信頼される医療を目指します。

Openness – 心を開き、患者さまと公平に向き合います。

病院概要

病院名 社会医療法人石川記念会 HITO病院
所在地 愛媛県四国中央市上分町788番地1
電話 0896-58-2222
代表者 理事長 石川 賀代
診療体制 病床数257床
(緩和ケア病棟13床、HCU12床、回復期リハビリテーション病棟50床、地域包括ケア病棟53床、手術センター、内視鏡センター、脳卒中センター、創傷ケアセンター、人工関節センター、糖尿病センター、統合型歩行機能回復センター)

標榜科目

内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 緩和ケア内科 糖尿病内科 リウマチ科
外科 消化器外科 心臓血管外科 呼吸器外科 肛門外科 脳神経外科 整形外科
形成外科 美容外科 婦人科 乳腺外科 泌尿器科 耳鼻咽喉科
皮膚科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科 歯科

フロア構成

11階	レストラン
10階	緩和ケア病棟 13床
9階	一般病棟 41床 (外科・整形外科・婦人科)
8階	一般病棟 43床 (脳神経外科・循環器内科)
7階	一般病棟 45床 (内科全般・形成外科)
6階	地域包括ケア病棟 53床
5階	回復期リハビリテーション病棟 50床
4階	手術室 5室・HCU 12床・美容外科
3階	医局・管理部門・サテライトセンターなど
2階	内視鏡・放射線・救急・健診センター
1階	外来・化学療法・リハビリテーション・ホスピタルストリート・サポートセンター・コンビニ・カフェ
地下1階	給食・検体検査・薬剤・剖検





ホスピタルストリート



外来フロア



4床病室



談話室



特別室 和室



レストラン「SORA DINING」



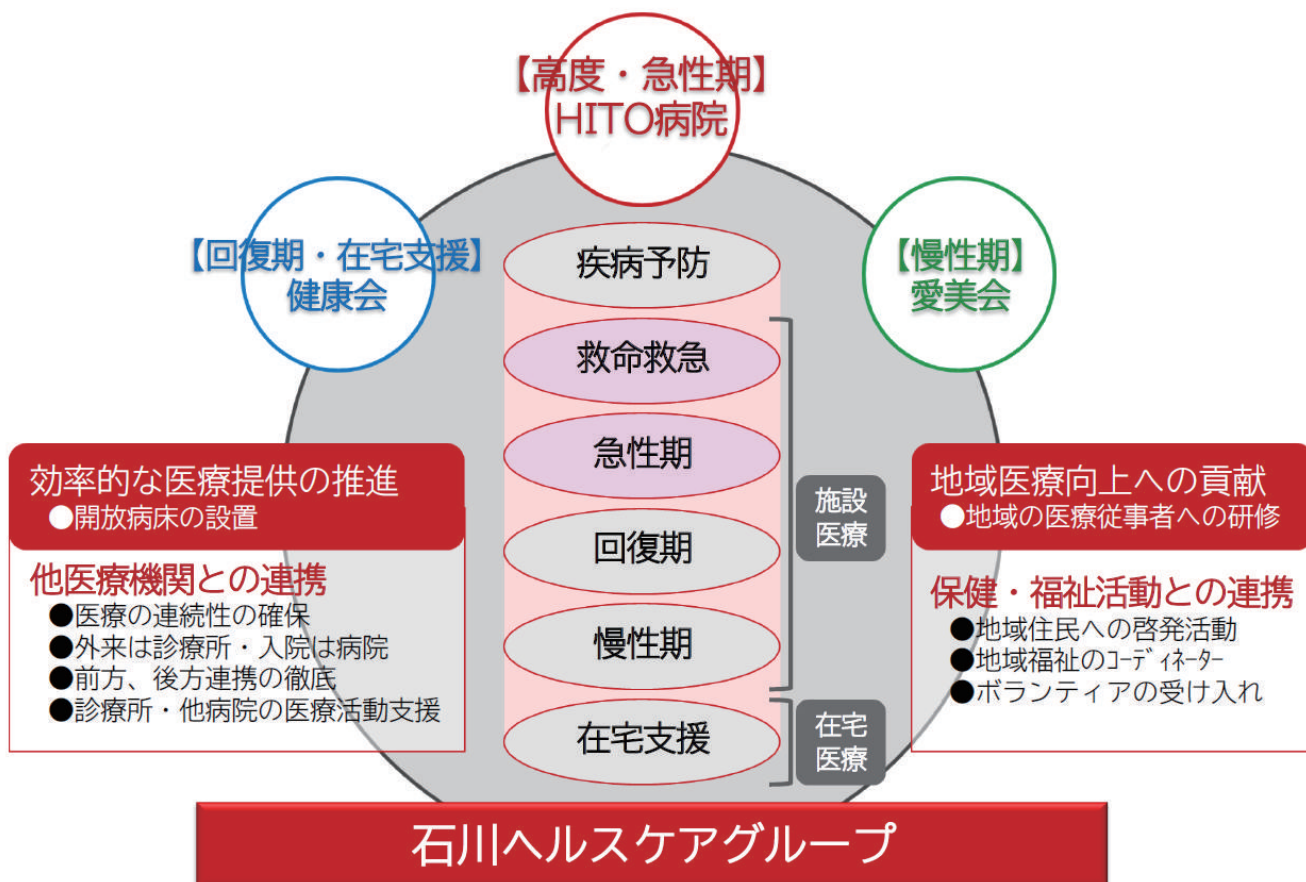
特別室 洋室

HITO病院で実践できること

地域医療と専門医療、HITO病院で経験できます。
手技のチャンスも豊富にご用意しています。

医師としての総合力の習得

当院では、高度急性期から在宅医療まで幅広く学ぶ事ができます。
研修医のキャリアパスにおいて、高度急性期から慢性期までの異なる病床機能や在宅医療に従事することができる環境で研修する事は、将来自分の専門分野を決定する上で役立ちます。またあらゆるセンターやチームという形で組織力を結集し、地域包括ケアシステムの実現に向けて活動しています。



高齢者人口増加の影響もあり、
医療は「治す医療」から「支える医療」への変化が必要となりつつあります。
当院は他職種とも連携し、質の高いチーム医療の実践を目指しています。

地域医療

HITO病院は「24時間365日の断らない救急医療」を基本方針に、地域の中核病院として成長を遂げてきました。多くの医療機関、福祉施設などと連携しながら、地域の皆さまのいきるを支える。地域密着型の病院です。

救急医療

愛媛県四国中央市の救急医療の指定病院として、年間約1,600台の救急車を受け入れています。救急研修や当直では研修医がファーストタッチを行い、多くの症例の経験を積みまます。

プライマリケア

総合診療医の指導のもと、患者さま中心の全人的な医療を実践。臨床医として不可欠なコミュニケーションスキルと、柔軟な診断能力が身に付きます。

専門医療

11階建ての院内では、救急からHCU、手術室、一般急性期・地域包括ケア・回復期リハビリテーション・緩和ケアまで、多岐にわたる医療を展開。その中でも脳卒中センター・人工関節センター・糖尿病センターなど専門的医療にもチャレンジできます。

チーム医療

「患者さま中心の質の高い医療」という考えのもと、当院では他職種共同フラット型チーム医療を実践しています。診療や職種の垣根を越えたチーム医療にも参加する事が可能で、各職種それぞれの専門性や役割を学びます。



募集要項

- ◆身分： 常勤医(初期研修医)
- ◆定員： 3名(実績:平成30年度 3名、平成29年度 1名、平成28年度 2名)
- ◆給与： 1年目 基本給:350,000円 年収見込:5,502,000円
2年目 基本給:550,000円 年収見込:8,180,000円
(賞与・当直手当含む)
- ◆勤務時間： 8時30分～17時30分(週40時間)
- ◆当直： 1年目7月以降 月4回程度
- ◆休日： 年間休日108日(平成30年度予定)
- ◆休暇： 年次有給休暇、メモリアル休暇、HITOいきホリデー(連続休暇制度)、年末年始休暇ほか
- ◆保険： 健康保険、労災保険、雇用保険、厚生年金保険

募集要項

1. 応募資格 医師免許を取得している者、または平成31年3月に取得見込の者
2. 試験・試験内容 面接試験および適正試験
3. 見学日・試験日 ご希望の日時に応じて随時調整いたします
4. 出願書類等 自筆の履歴書・卒業見込証明書・成績証明書・健康診断書
5. 出願書類提出先 〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町788番地1
社会医療法人石川記念会 HITO病院 臨床研修センター(担当:上田)
TEL:0896-59-6380 FAX:0896-59-6381 URL:<http://hito-medical.jp/>

プログラムの特徴



研修医による研修医のための研修プログラム

研修の選択科目は、複数用意しています。さらに、ご希望に合わせて組み合わせも可能です。研修医一人ひとりのニーズに合わせたプログラムをオーダーメイドで作成していきます。2年後の理想が実現できるプログラムを一緒に考えましょう！

研修プログラム構成

選択必修科:外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科より2科選択
 ※小児科・産婦人科・精神科を選択した場合は協力型病院にて研修
 地域:HITO病院およびグループ関連施設

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			麻酔科	救急			各科選択			内科			各科選択			地域	各科選択						

平成29年4月より形成外科の道を志望した初期臨床研修医のプログラムは、このようなプログラムで2年間研修を行いました。

1年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			麻酔科	外科	救急			循環器内科	形成外科	脳外科	内科
2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科	婦人科	神経内科(+救急)		地域	整形外科		総合診療科(+救急)		精神科(協力型病院)	形成外科	

先輩の声 Senior voice

HITO病院のプログラムは「自由度が高い」ですし、各先生もとても熱心に指導してくれます。例えば、内科研修が終了して他科で研修していても内視鏡検査は積極的に参加させて頂き、1年で150例の経験を積むことができ自信も着実についてきました！

少数精鋭の研修体制

当院の初期研修医の定員は年間3名となっています。その分、各科指導医からマンツーマンの指導が魅力です。自分のペースでじっくり学びたい人にもオススメ。



臨床経験の豊かなスタッフが多く在籍し、指導医と研修医のマンツーマン方式を採用しています。また、各診療科の垣根が低く、科を問わず多くの専門医と交流を持ち、気軽に相談することができます。

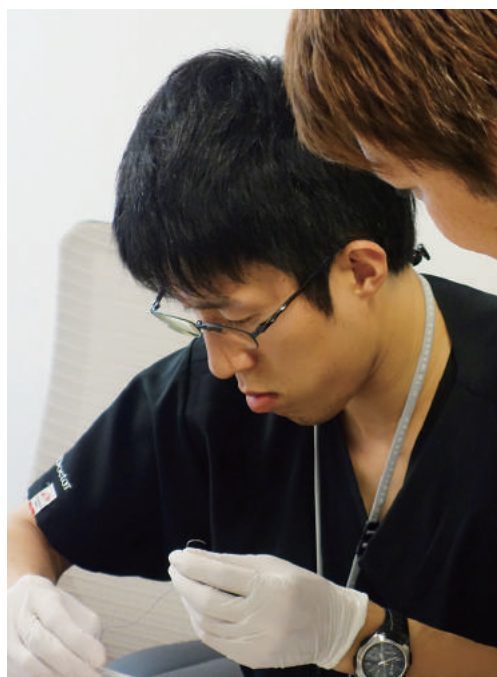
当院では研修医も貴重な「戦力」と考えています。
臨床現場で多くの主義などの経験を積みたい方にはピッタリの環境です。

先輩の声 Senior voice

救急をローテしているときは全てのファーストコールが来ます。救急車受け入れから初期対応、検査オーダー、治療の方針立て、必要に応じ各診療科へのコンサルトまで一連のこと全てを担当します。外傷の場合は縫合処置なども自分で行います。豊富な症例を短期間に経験できる貴重な時間です。

最初は分からないことだらけですが、先輩研修医や指導医の先生方、救急担当の看護師さんに手取り足取り教えていただきながら対応していくので不安はありません。忙しい日々ですがやれることは日増しに多くなり成長も実感できます！

(矢作研修医)



Point 3

レジデントレクチャー(通称:レジレク)

当院では、上級医全員が研修医向け勉強会(レクチャー)を実施しています。

レジレクの愛称で院内にも広まり、やる気あるスタッフたちと一緒に講義あり、実技ありのレクチャーを受けることができます。(毎週水曜日 17:30から18:00 年45回)



Point 4

学会発表&資格取得もサポート

HITO病院では、学会発表やICLS・ACLSなどの資格取得も積極的にサポートしています。また論文執筆の支援や全国の研修医との交流研修などにも参加しており、さまざまな経験を積むことが可能です。



充実の協力型病院



- ・愛媛大学医学部附属病院
(644床 愛媛県東温市)

当院にはない診療科や病理解剖など地元の愛媛大学で研修する事が可能です。



- ・大阪市立総合医療センター
(1063床 大阪府大阪市)

大阪市の三次救急病院として、乳児から成人まで重症患者の救急対応を集中的に経験することが可能です。研修先のレジデントとも交流し、良い刺激がもらえます。



- ・北部地区医師会病院
(200床 沖縄県名護市)
- ・北部地区医師会付属病院 心臓血管センター
(36床 沖縄県名護市)

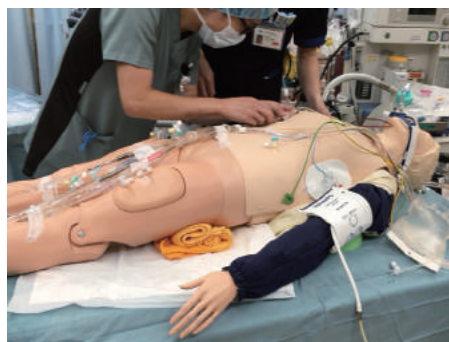
何とんでも沖縄で研修できるチャンスが当院にはあります！特に循環器内科や心臓血管外科に興味ある方にオススメ！

- ・公立学校共済組合 四国中央病院
(275床 愛媛県四国中央市)

小児科・産婦人科・精神科については同じ四国中央市にある四国中央病院での研修が可能です。当院と行き来できる点も魅力です。

- ・石川クリニックほかグループ関連施設

クリニックでの研修や介護施設、在宅医療等の経験が可能です。地域のかかりつけ医や訪問診療を経験し、住み慣れた場所で長く暮らせる喜びを自身の肌で感じてください。



研修の様子

大阪市立総合医療センターでの研修を通して

2017年11、12月の2ヶ月間、協力型病院の大阪市立総合医療センター(以下、市総合)救命救急部にて研修をさせていただきました。3次救急やICU管理を中心に様々な症例を担当する事ができ、HITO病院で学んできた知識や技術をさらに深めることができました。中でも“チームダイナミクス”を経験できたのは非常に大きなプラスになりました。明確な役割分担や互いを尊重する姿勢を大切にしながら、「蘇生」という目的を完遂するためにチームをよい方向に持っていく。言葉は難しいですが、症例を重ねるうちに少しずつこの考え方を意識できるようになったと思います。“チームダイナミクス”をHITO病院でも活かせるように、アクションを起こしていきたいと思います。

HITO病院 研修医 井原 康輔



研修を支えるツールの充実

地域の方が住み慣れた町で、健康に暮らしていくために、「いきるを支える」未来を作り出すために当院では『未来創出HITOプロジェクト』を実施しています。

プロジェクトでは、「HITO」の視点を踏まえてICT(情報通信技術)の利活用を推進し、医療の質と業務効率の向上を図ります。研修医にとっては、忙しい研修の強い味方にもなっています。

アイパッド

1 全医師が「iPad」を活用

院内どこでも情報閲覧



- 院内ネットワークの最適化
↓
セキュリティ強化や途切れない通信
- 薬剤処方実績や入院後続発症の実態に関するデータ
- 診療ガイドライン
論文の参照・検索

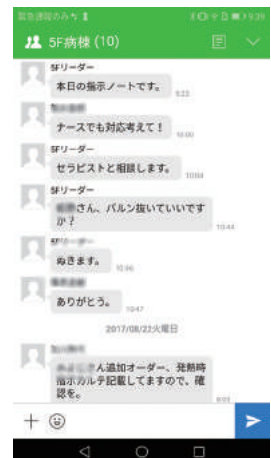
病院の全医師が「iPad(アイパッド)」を持ち、実臨床データを活用した診療を行うことは、国内初(※当院調べ)の事例であり、最新のICTを利用することでよりよい医療サービスを提供したいと考えています。実臨床データ検索アプリは、薬剤処方実績や入院後続発症の実態などの情報が確認できる医師を中心とした医療従事者向けの実臨床データ検索サービスです。医療従事者にとっては、薬剤を選択する際や処方説明の際の一助となります。

ライン ワークス

2 院内SNS「LINE WORKS」

SNSを使ったコミュニケーション

法人向けチャットサービス「LINE WORKS(ラインワークス)」は基本的に院内でのやり取りや連絡、チーム内共有などに使用しています。機能はとても優れていて様々なことができます。例えば「既読」を個別単位で把握できるため、まだホームをみていない人などをすぐに確認することが可能です。簡単にコミュニケーションがとれて連絡の記録を過去にさかのぼって確認できるため、共有漏れを防ぎます。



Resident Voice

臨床研修医の生の声

1

矢作 竜太

Yahagi Ryuta

埼玉県出身

H29.3 愛媛大学卒



Q ここまで当院で研修してみて実際どうでしたか？

A.それが結構思った通りで、いやむしろ「思ったより色んなことができるな」って感じで、嬉しかったんですね。手技に関しても、かなり沢山経験できてます。毎日があっという間です。

Q 経験できる症例の種類はありますか？

A.高齢者が抱える疾患は様々です。いつも呼んでもらえる環境が功を奏していて、救急もいつでも診させてもらえるので、多くの疾患を経験できていると思います。学生時代に考えていた病院の規模＝経験できる症例のイメージは早くも覆りました。

Q 研修プログラムの内容を教えてください。

A.説明会に行くと、学生の方にもよく聞かれますが正直答えようがないですね。プログラムってどれのこと？って位、柔軟ですから。例えば内科を3カ月やって、麻酔1カ月、救急3カ月、みたいな流れはあるものの救急にいる時も他の診療科に呼ばれたら行くし、その逆もあるので、正直「プログラムをこなしてる」という感覚は全くないですね。僕はどちらかというと自由に何でもやりたいタイプなので、ありがたいですね。でもそれを人に説明するとなると困りますね。「どんなプログラムなんですか？」って聞かれると、「自由です。以上。」という具合に答えてしまいます。

協力型病院での実習



愛媛大学医学部附属病院にてドクターヘリの見学実習

Q 当院の魅力について教えてください。

A.やはり何と言っても当院は「仕事がしやすい環境」だと思いますね。まず、先生方だけでなく看護師さんやリハさんまでもが僕の名前を覚えてくれてるんですよ。これも研修医が少ないからということもあるかもしれませんが、元々職種間の垣根が低いというか、一体感があるんですね。こちらが分からなくても、色々なスタッフが名前を覚えてくれて呼んで下さるので、仲間として迎えられてる気がします。そうすると、僕もお願い事をしやすくなりますしね。とても働きやすいです。

Resident Voice

臨床研修医の生の声

2

吉本 彩花

Yoshimoto Ayaka

松山市出身

H28.3 愛媛大学卒



Q HITO病院の雰囲気や研修のムードについて教えてください。

A. 院内ですれ違ったスタッフ同士が挨拶を交わすのが当たり前の感じが良いですね。やっぱり働きやすさにも直結しますよね。とにかく病院全体で研修医を育てようとしてくれるところと若いスタッフが多いので活気がある点がとても魅力です。

Q 研修プログラムの魅力を教えてください。

A. 一人ひとりの希望を聞いた上でカリキュラムを柔軟に組んでもらえる、研修医にとっては大変ありがたい体制になっています。貪欲に求めれば求めるほど与えられるという素晴らしい研修環境ですが、これは少数だからこそその強みかと思えます。それに皆さん体調も気遣ってくれて、女性にとって働きやすい環境にも感じますね！

Q 研修はどれくらい忙しいですか？

A. 他の病院がわかりませんが、暇ではないですね(笑)。ただ、メリハリのきいた形で休む時は休み、働くときは働くといった感じです。とにかく毎日たくさんの刺激や感動や反省があり充実していますよ。自身の成長を感じられている点が、やりがいを感じるポイントかと思えます。

2年間の研修を終えて...

「なぜこの病院で研修しようと思ったの?」と、この2年間で何度も聞かれることがありました。わたしが松山市出身であり、もともと四国中央市に何の繋がりも持っていなかった人間なので、周囲から見れば不思議な選択だったのかもしれませんが。

振り返ってみると、病院見学に来てみて感じた暖かい雰囲気が好きだったこと、興味のある分野を教えられる先生がいらしたことが、研修医が少ないからこそしっかり研修できるのではないかと思ったこと... いろいろ挙げられますが、結局のところ「なんとなく」が一番正しいのかもしれません。研修なんてどこでやっても最終的に自分がやるかやらないかが問題だと思うので、せっかくなら熱心に誘ってくれた病院で頑張ろう、と。正直に言えばそれだけの理由で選んだ研修先でしたが、2年間の研修を終えた今、その選択は決して間違いではなかったとはっきり言えます。2年間、たくさんの方々に支えていただきました。熱心に教えてくださる先生方を始め、サポートして下さる看護師さん、リハビリや事務など多職種のスタッフさん、そして患者さま。数えきれないほどの迷惑をかけながら多くのものを学び、吸収し、医師としての基盤を作り上げていきました。研修医としての2年間は、医師として今後どう生きるかを決める重要な期間だと思います。その2年間のこの病院で本当によかったと心から感じています。

各診療科紹介

各診療科の一部をご紹介します

各診療科ローテーションを行う初期研修は、それぞれの診療科が研修医の習熟度を確認しながら、成長のサポートを行います。

1. 総合診療科

General Department

患者さまとより近い関係で、「寄り添う医療」を実践

患者のために病院を
横断的に動き支え合う

地域を診る医師として、社会のニーズ、時代の要請として総合診療専門医は誕生しました。患者さまを総合的に診る診療科として、全身を意識した医療、患者さまの背景を意識した医療、患者さまのところに寄り添う医療を行います。総合診療科ではとにかく多くの症例を経験して、臨床能力を高めるトレーニングを行います。救急のファーストコールはもちろん、初診外来や病棟管理などにもチャレンジします。また当院では期間型の後期研修プログラムもあるため後期研修を見据えた指導を実践していきます。



総合診療科部長

京楽 格

京楽先生は神経内科を専門に総合診療医として組織横断的にあらゆる疾患に対応しています。地域の方が安心して住み続けることができるために地域の医療機関とも連携を取りながら横断的に活動しています。また臨床研修センター長として初期・後期研修医の指導にも注力しています。

HITO中心の総合診療プログラム(基幹型)

平成30年度より後期研修プログラムとして、地域医療を担う「総合診療専門医」の育成に取り組みます。診療領域を問わず、適切な初期対応や、病気だけでなく、その人の置かれた社会的状況なども考慮した総合的な医療が実践できる臨床能力の高い医師の育成を目指しています。初期臨床研修でインプットした知識・技術・経験を更に高めながら、「いきるを支える」当院の理念と情熱をもって、総合診療専門医の育成に取り組んでいきたいと考えています。

研修内容と到達目標



患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することを目標とします。したがって、各カンファレンスでのプレゼンテーション、各学会での発表も重要視します。(総合診療専門研修Ⅱ・内科)

診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対する確かなマネジメントを提供することを目標とします。(内科、小児科、救急をメインにローテーションしていただきます)

へき地診療に携わっていただき、修了時には、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあつたり、患者を取り巻く背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供することができ、かつ指導できることを目標とします。(総合診療専門研修Ⅰ)

ローテーション一例

1年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	HITO病院											
領域	総診Ⅱ						内科					
2年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	協力型病院			HITO病院						協力型病院		
領域	救急			内科						小児科		
3年目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
施設	HITO病院	クリニック		HITO病院	へき地		HITO病院		クリニック		HITO病院	
領域	その他	総診Ⅰ		その他	総診Ⅰ		その他		総診Ⅰ		その他	

処遇 (総合診療プログラム)

◆理論年収(基本給、賞与のみ): 1年目 10,220,000円 2年目 10,640,000円 3年目 11,060,000円
(各手当 別途支給)

地域医療を支える総合診療医を目指して

2018年4月より新専門医制度がスタートし、総合診療科も基本領域として新たに加わることとなりました。日本における総合診療医の位置づけはまだ不透明なところも多いですが、逆に多様な働き方や患者さんとの関わり方を実現する、可能性を秘めた分野であると思います。私はそこに魅力を感じて総合診療科を選びました。いずれ何らかの専門を持つとしても、後期研修の3年間は疾患や臓器別の考え方にとらわれずcommon diseaseを中心とした診療を行い、初期研修で培った知識や技術を深化させていきたいと考えています。

当院は急性期から患者さんが退院した後まで継続して診療を行うことができ、総合診療を行う上で最適な環境だと思います。地域医療を担う若手医師として地域の皆様のお役に立てるよう、今後も頑張っていきたいと思っています。



総合診療科 後期研修医
井原 康輔

2.内科

Internal Medicine

心臓病・糖尿病・消化器疾患を中心に
現代人特有の生活習慣病を学ぶ

内科系コースでは、内科全体にわたる疾患についての診療・治療に関する知識と技術を習得します

消化器内科

消化管(食堂・胃・小腸・大腸)領域から肝臓胆嚢膵臓領域まで全ての消化管疾患を急性期から慢性期まで多くの疾患の診療を行っています。また消化器外科と迅速に連携し、消化器疾患の治療をスムーズに行うようにしていますので、研修医には一連で必要な治療に参加してもらっています。研修期間に応じて到達目標を定めワンツーマンで指導します。ある研修医は1年目で150例の検査に参加しました。



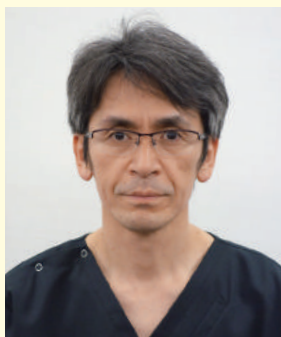
消化器内科部長

扇喜 智寛

内視鏡は手技と診断の両方を磨いていく必要があります。まずは内視鏡モデルも用いたトレーニング等からスタートしますが、一定のレベルに到達すれば患者を対象とした実技指導を行います。消化器内科を目指す方はもちろん、そうでない方も後に役立つ経験ができるようサポートします。

循環器内科

一刻を争う循環器疾患では、適切な初期治療が生死を分けるため、常時(24時間)緊急冠動脈造影、PCIが可能な体制を整えています。重症な心不全や心肺停止の患者さまに対しては、経皮的な心肺補助装置(PCPS)を装着し、治療することが可能です。



副院長/
循環器内科部長

伊藤 彰

循環器内科では、副院長の伊藤彰 循環器内科部長が治療にあたっています。伊藤副院長は、1988年からPCIを開始し、これまでに5,000例以上の施行実績があり、コロンブス病院(イタリア ミラノ/ステント治療のパイオニアであるコロポDr.に師事)や国立循環器病センター、大阪市立総合医療センターを経て、当院にいられました。現在は、日本冠疾患学会理事などを務めています。

糖尿病センター

糖尿病は、合併症も含めて全身管理が必要となる疾患です。入院患者への対応はもちろん、糖尿病専門医により、糖尿病の基礎知識及び専門知識の習得ができます。また、糖尿病チームを多職種にて結成し、定期的に「糖尿病教室」を開催し、地域住民の方に糖尿病の基礎知識や予防についての教室を開催しています。地域の方も多数参加される人気の教室で研修医も講師を務めます。



糖尿病講演会の様子

3. 整形外科

Orthopedics

整形外科をじっくり学びたい人へ
豊富な手術件数、関節外科・脊椎外科手術

整形外科医としての
基本的な「診断」「処置」「治療」
「手術」を習得。

整形外科コースでは外傷、慢性障害、スポーツ障害などQOLに関わる幅広い分野を対象としています。急性期から回復期・維持期と継続的な治療が可能な環境のもと、診断・処置・治療・手術に豊富な経験を積むことが可能です。その上、関節や脊椎に関しては専門外来も開設しており、より専門性の高い外来治療を行っております。

豊富な手術件数！

整形外科の魅力は、何と言っても豊富な手術件数です！

研修を通して助手から執刀医を経験し、整形外科専門医への基本手技を習得します。

人工関節センター



人工関節センター
センター長
整形外科部長

間島 直彦

「宇摩地域の中でより良い人工関節医療を多くの患者さまへ」をコンセプトに

平成28年4月に「人工関節センター」を開設しました。当院は、平成26年より愛媛大学医学部附属病院人工関節センターのサテライト病院として機能しており、宇摩地域の開業医の先生方よりすでに多くの患者さまをご紹介いただき、人工関節手術を数多く行っています。



人工関節センターの特徴

1. 愛大と連携し、難治症例や再置換症例も対応可
2. 患者の不安をとる入院前からの細やかな説明
3. 人工関節専門の多職種スタッフ
4. 入院前から退院までの充実したりハビリ
5. クラス100の清潔なバイオクリーン手術室
6. 常勤麻酔医による術前術後の疼痛対策
7. HCUでの全身管理や合併症への対応
8. 2次救急病院として異常時には24時間受け入れ可能
9. Navigationを用いた正確な手術

先輩の声 Senior voice

HITO病院に入職した際は、何を目指すか漠然としていましたが、研修を通じて整形外科に興味を持ちました。早くから手術などの経験を積める事も魅力でしたし、subspecialtyが多彩の為、一つを極めるもオールラウンドに経験するにも良いと思いました。

4. 形成外科・ 美容外科Be

Plastic surgery
Cosmetic surgery Be

救急外傷での創傷処置・
美容センターでの研修

当院人気の診療科。 手技レベルの向上を目指します。

当院は、常勤医師3名体制で形成外科診療を行っています。形成外科学は、傷跡をきれいに治すことが強く求められる外科学です。初期臨床研修では、切除・縫合といった基本手技の習得を目指します。形成外科以外を志望している先生にも手術や救急外来・病棟での処置を通して、基本的な皮膚の扱いをはじめ、創処置の基本を学んでほしいと思っています。当院での形成外科研修は人気で、直近2年間で2名の研修医が形成外科を志望しました。



創傷ケアセンター

医師や看護師だけでなく、治療に必要なその他の診療科や医療スタッフと連携した治療を行っています。糖尿病療養指導士によるフットケアをはじめとして、管理栄養士による栄養指導など、治療後のアフターケアまで行える体制を整えています。また地域の施設の方に、創処置についての理解を深めてもらう啓蒙活動を目的として出前講座等も行っています。



褥瘡ケアの手技実演指導中

美容外科Be

美容外科Beはプライバシーに配慮した設計になっており、入館は専用玄関・エレベーターで受付まで直通です。看護師だけでなく、エステティシャンも加わり、日常のスキンケアから美容外科手術まで患者さまのニーズに沿ったトータルケアを提供しています。形成外科だけでなく美容分野も経験できる事も魅力の一つです。



HITO 病院は多くの形成外科医を輩出しています！

直近2年間でも2名の研修医が形成外科を志望しました。

もちろん、2名とも初めから形成外科を志望していた訳ではありませんが当院でのローテートで形成外科医としてのキャリアを決意しました。

当院では充実した指導体制で形成外科としての基本を丁寧に指導します。

是非研修医の皆さんには形成外科の難しさや面白さを感じてほしいと思います。

研修内容と習得目標

- 1.メス、ハサミなどの使い方、局所麻酔、皮膚切開、結紮、縫合などの一般外科的処置の基本
- 2.褥瘡や難治性潰瘍など皮膚軟部組織欠損創に対する創傷処置の基本
- 3.顔面や手の軟部組織外傷の初期治療の基本
- 4.熱傷の初期治療の基本
- 5.形成外科的縫合法

先輩の声 Senior voice

大学では形成外科を学ぶシーンは少なく、当初は形成外の道は全く考えていませんでした。しかし形成外科の先生の手技に感動を覚えたことをきっかけに形成外科の奥深さに魅力を感じました。

形成外科と聞くと縫合等の印象が強いと思います。もちろんその通りで形成外科では色々な手技や処置方法を学ぶ事ができました。その他にも入院患者や施設の褥瘡発生を予防する為のラウンドや訪問などが患者のQOL向上に大きく関わってきます。

自分も患者に寄り添うスペシャリストとしてスキルを磨いていきたいと考えています。



4. 脳神経外科・ 神経内科

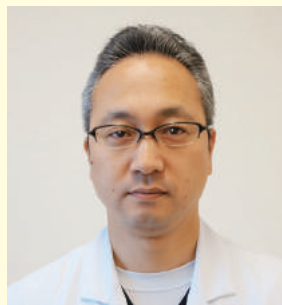
Neurosurgery
Neurology

超急性期から在宅まで
脳卒中センター、回復期リハビリテーション

超急性期から生活期まで
チーム医療で行う
脳卒中治療を習得。

脳卒中センター

当院では24時間365日、脳神経疾患患者さまの受け入れをしております。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中は緊急治療が必要な病気です。平成26年4月より脳卒中センターを開設し、一刻を争う脳卒中に対して、より迅速な診断・治療を提供しています。四国中央市の脳神経疾患は全て当院に搬送される為、症例も豊富です。救急医療からリハビリまで幅広く研修できます。



脳卒中センター
脳神経外科 部長

篠原 直樹

愛媛県四国中央市出身で、平成7年に愛媛大学医学部卒業後、同大学脳神経外科入局。平成26年HITO病院に入職。脳疾患はもちろん、平成29年1月には統合型歩行機能回復センターを開設しました。センター長として「歩行」という幅広い治療にも従事し、地域医療を支えています。

脳血管疾患は2025年も増加

脳卒中に対する初期対応のトレーニングが重要

宇摩医療圏の推計患者数(5疾病)

	2011年						2025年				全国	
	2011年		2025年		増減率(2011年比)		増減率(2011年比)		増減率(2011年比)			
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来		
悪性新生物	106	127	114	132	8%	4%			18%	13%		
虚性心疾患	13	49	15	56	16%	14%			29%	26%		
脳血管疾患	144	90	180	103	25%	15%			44%	28%		
糖尿病	19	162	23	167	17%	3%			31%	12%		
精神及び行動の障害	216	158	216	144	0%	-9%			10%	-2%		

“脳をみるだけでなく人を見る”



充実した診断治療機器であらゆる症例に対応

128列2管球ヘリカルCT、3T・MRI、フラットパネル・バイプレーンDSAなどを備えており、神経学的診察を含めた脳卒中の初期診断技術も研修して頂けます。手術については、ナビゲーションシステム、神経モニタリング、3次元融合手術シミュレーション、術中CT「AIRO」などの最新の医療機器を備え、安全・確実な医療を目指しています。また、最新の手術顕微鏡、神経内視鏡などを用いて低侵襲な手術も行っています。脳神経外科手術の助手や基本手術の執刀医にもなって頂きます。血管内治療も研修できます。



● 最新のリハビリテーション

ロボットスーツ「HAL^{ハル}」（医療用下肢タイプ、自立支援用単関節タイプ、自立支援用腰HALを活用）

緩徐進行性の神経・筋疾患の進行抑制治療において、歩行機能の改善効果が示された新たな医療機器です。



「HAL[®] 医療用下肢タイプ」の仕組み

装着者が筋肉を動かそうとした時、脳から脊髓～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。

このとき、微弱な BES(生体電位信号) が皮膚表面に現れます。HALは装着者が立ち上がりや歩行しようとした時の“生体電位信号”を読み取り、その動きに応じたアシストを行います。

HALを用いて“歩く”という動作を適切にアシストしたとき、“歩けた！”という感覚のフィードバックが脳へ送られます。これにより脳は“歩く”ために必要な信号の出し方を少しずつ学習することができます。

これにより、緩徐進行性の神経・筋疾患により歩行機能が低下した患者の病気の進行を抑制し、治療に繋がる。

Prof. Sankai, University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.
※「HAL」は、CYBERDYNE 株式会社の登録商標です。

● 移動式術中 32 列ヘリカル CT「AIRO」を日本初導入

近年、脳神経外科や整形外科の分野では、より低侵襲で、正確な手術を実施するためにナビゲーションシステムが導入されるようになりました。ナビゲーションで重要なのが正確な位置情報です。手術を受ける体位で撮影した画像を活用することで、術前に撮影した画像より精度が向上し、より質の高い手術を行うことができます。術中CT「AIRO」は手術台に完全対応しており、患者さまを動かさず撮影でき、正確な位置情報を得ることができます。また、径が107 cmと大型のボアサイズで、1回の撮影範囲が径50 cm×100 cmと大きいため、脊椎全体を観察でき、3D-Cアーム装置よりも骨や筋肉を鮮明に可視化できます。脳神経外科手術や脊椎手術、外傷外科手術での撮影に最適です。



6.外科

Surgery

早期発見・早期治療

消化器外科を中心に広範囲の外科疾患を診療しています。研修早期から手術に積極的に参加することにより、手術の面白さや醍醐味を十分に経験できるのではないのでしょうか。また、診断から治療まで患者の治療に参加する事が可能です。

経験豊富な指導医により基本的な手術手技を習得できるよう個別指導を行っています。

愛媛大学消化器腫瘍外科の教育施設としても若手医師の指導を行っています。

研修早期からの手術参加で
早い成長が見込めます！



消化器外科部長

湯澤 浩之

平成28年8月より消化器外科部長として着任された湯澤先生は、平成3年長崎大学医学部を卒業後、消化器外科を専門として診療に携わり、前職の四日市羽津医療センターでは消化器外科部長として従事されました。湯澤先生は胃・肝臓・胆のう・膵臓・大腸の手術が可能で、開腹手術も腹腔鏡手術も経験豊富です。

7.緩和ケア

Palliative care

緩和ケア病棟(がん)・在宅・地域の
つながりを修練する

当院は
「がん診療連携推進病院」です。

当院は愛媛県がん診療連携推進病院に指定されており、地域で専門的ながん治療を提供し、がん診療に貢献する役割を担っています。当地域唯一の緩和ケア病棟や専門の医師がおり、マンツーマンの指導体制となります。医師を中心に結成されている「緩和ケアチーム」により、医師だけでなく薬剤師等の各専門職と行うチーム医療を実践しています。



談話室

■ その他の診療科

8.放射線科

身体学的所見を取得し、画像診断と統合して、個々の患者に対して最善の放射線治療が施行できるように、治療計画が立案できるようになる事を目標としています。また当院ではタブレットを用いていつでも放射線科医にコンサルトできる環境があります。

9.耳鼻咽喉科

平成29年9月に新規開設。愛媛大学医学部附属病院と連携して医療圏域はもちろん、圏域外からも多くの方が受診されています。他科とも連携して外来、病棟、手術の基礎を学びます。

10.婦人科

経験豊富な指導医のもと、子宮がんや子宮筋腫、卵巣嚢腫など診察、手術、処置を行います。また四国中央市での子宮がん検診の受診率向上に貢献すべくあらゆる活動に取り組んでいます。

11.麻酔科

指導医とのワンツーマン指導で、毎日手術に参加する事が可能です。全身管理や挿管が行えるよう1年目前半で研修を行います。

■ 後期研修および専門研修について

【基本領域】

- ・日本専門医機構総合診療専門医認定施設（基幹型）
- ・日本内科学会連携施設（愛媛大学医学部附属病院・徳島大学医学部附属病院・住友別子病院）
- ・日本外科学会関連施設（愛媛大学医学部附属病院）
- ・日本整形外科学会連携施設（愛媛大学医学部附属病院・愛媛県立中央病院）
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設（徳島大学医学部附属病院）
- ・日本形成外科学会教育関連施設（徳島大学医学部附属病院）

【サブスペシャリティ】

- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本循環器学会研修関連施設
- ・日本肝臓学会関連施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本脳卒中学会研修教育病院
- ・日本人間ドック学会健診研修施設

【その他】

- ・日本病院総合診療医学会認定施設
- ・日本病院会病院総合医育成認定施設
- ・日本がん治療認定医機構研修施設

■ 研修医宿舎完備

遠方から来られた研修医のみなさんにも安心してもらえるよう、一般のアパートを当院にて借り上げ、研修医宿舎として格安で提供しています。HITO病院は頑張るあなたをサポートします!!



家賃
半額負担!

■ 夕食無料バイキング

なんと、11Fレストランでは職員の夕食が無料バイキング形式で提供されています。仕事の合間に一息つける場として、また他職種のコミュニケーションの場としても頑張る皆さんの強い味方となるでしょう。バランスの取れたメニューで健康管理もバッチリです。



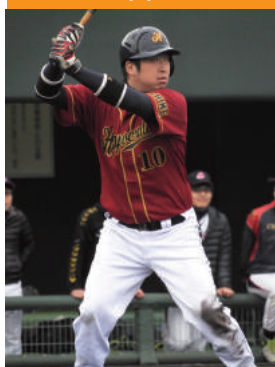
ランチは職員割引で
400円!!



■ クラブ活動

当院では、数々のクラブ活動があり、同志が集い汗をかいて活動しています。フットサル、野球、バスケットボール、ボードゲーム、バイクツーリングやマラソン(駅伝チーム)、軽音部などがあります。

野球部 Hippocrates



駅伝部 HITO AC 四国中央市駅伝大会で四連覇!



軽音楽部 イヨパミロン



■ 附属保育所「HITO KIDS」

当院では、24時間保育が可能な附属保育所を完備しており、子育てをしながら活躍していくことも可能です。

保育所では、自家給食を提供し、栄養バランスが取れバラエティに富んだメニューとし、出来る限り野菜を多く取り入れる工夫がされています。おやつも手作りして「食育」にも力を注いでいるため、お子様を預けて安心して勤務することができます。また、育児休暇について希望者は100%取得できますので、ライフスタイルを尊重した勤務が可能です。



■ 「くるみん」マークを取得しました

「くるみん」マークとは厚生労働省によって制定されたマークで、職員の子育てを支援するために行動計画を策定し、そこに定めた目標を達成するなど、雇用環境に関して一定の要件を満たした企業にのみ使用が認められるものです。

当院では産前産後休暇・育児休暇共に100%取得することができ、さらに附属保育所も備えているので、復帰した後も子どもの近くで働くことができ安心です。また希望があれば男性でも育児休業を取得することができます。スタッフの皆さんに、子育ても仕事も同じように大切にしてもらいたいという思いからの取り組みです。



■ おしゃれで動きやすい制服

優れた機能性、丈夫さと優しさを感じられるデザイン。
職種別に色が異なり、医師はブラックのスタイリッシュな制服です。



■ 研修医室

医局の中に研修医専用の部屋を完備しています。図書や1人1台の端末を用意し、他病院とのネットワークや文献検索のツールが豊富。当直室も完備しています。



研修医となる君たちへ

先輩に学べ！！

卒業して大学の内科教室に入局した時にはこれから何を専門にするか決めかねていました。そこで出会った6年先輩の循環器の先生が鮮やかにカッコよくカテーテルをやられる姿を見て循環器への興味が大きくなり、卒後3年目から国立循環器センターのレジデントに応募しました。

レジデント時代はスタッフ指導医から学ぶことよりも1～2年先輩の先生から学ぶことの方が多かったように思います。夜遅くまで病棟や医局で議論をして研鑽を深めることができました。出身大学も経歴も異なる色々な先生がいて、医師としてのキャリアパスを考える上でも影響されることも大きくありました。良いところは真似をするし、ダメなところは反面教師とする、そういう判断もできるようになります。

HITO病院にも出身大学、年代、経歴が異なる先生がおられ、画一的でない指導が受けられるのが強みになっています。ハード面での研修環境も実に充実しています。2年間の研修はあっという間です。

日々是研修！ Good luck！

副院長/プログラム責任者 伊藤 彰



成長をサポートします。

「いきるを支える」と「患者さま第一」を胸に、地域に根ざした病院として地域の方々に良質な医療を提供できるよう、スタッフ一同頑張っています。

「いきるを支える」という言葉には、医療・ケアを通じて患者さまの人生をサポートさせていただくという私たちの想いが含まれています。

研修医一人ひとりが、臨床に求められる知識と技術を身に付け、自信を得られるような2年間にしたいと思っています。若いパワーを病院全体でサポートしていきます。研修医と共にHITO病院がさらに成長していけるように。

脳神経外科部長/臨床研修副センター長 篠原 直樹



臨床研修センター長メッセージ

当院の研修医には、研修期間中に全ての研修医に共通して要求される基本的知識・技術を習得し、患者を全人的に診る能力を身につけると共に、将来専攻する専門分野で役立つような診療の基礎が習得してもらいたいと考えています。

医師としてのみならず社会人としての人格を涵養するためには、指導医やメディカルスタッフ、さらには患者さんの協力から構成される風通しの良い職場環境が必要です。当院は決して大きな病院ではありませんが、そのような環境は十分に提供できると思います。

「HITO病院で医師人生のスタートを切って良かった」と、必ず思っていたような研修にしたいと思っています。将来どの分野に進んでも、基礎力のしっかりとした、周囲から信頼される心優しい臨床医に成長できるよう、サポートしていきたいと考えています。

総合診療科部長/神経内科部長/臨床研修センター長
京楽 格



左から：篠原先生、京楽先生、石川病院長、井原研修医、矢作研修医、吉本研修医、伊藤副院長

H

H I T O
M E D I C A L
C E N T E R



いきるを支える。

HITO病院
Official Site



Facebook



美容外科Be
Facebook



社会医療法人石川記念会 HITO病院

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地1
TEL:0896-59-6380 FAX:0896-59-6381
URL:hito-medical.jp